



明日3月25日（金曜日）、中部中学校の令和3年度修了式が行われ、この一年間を締めくくることがとなります。昨年度末、「もう終わるだろう」と誰もが思っていた新型コロナウイルスの猛威は未だとどまるどころを知らません。そこに覆いかぶさるかのように、ウクライナ情勢への重大な懸念、さらには宮城・福島両県で最大震度6強を観測した地震などが、これからの生活にどのような影を落とすのだろうか、私たちの不安を増幅させています。

そのような中ではありますが、令和4年度（2022年度）はもうすぐそこまでやっています。そこには、中部中の新たな未来があり、大きな期待感や高揚感があることには間違いありません。「これでは無理だ」や「こんな風にはできない」と考えるのではなく、その時の環境や状況に応じて、「こうすればできる」や「こうやって楽しもう」と前向きな気持ちになることは、とても大切なことだと思います。このことは、卒業した3年生に教えてもらいました。コロナ禍であっても、中学校生活を存分に満喫し、笑顔で巣立って行った「楽しむ天才」たちに敬意を表したいと思います。そして、来るべき令和4年度が、中部中にとって一層明るいものになることを祈ります。



さて、私がこの学校に赴任して、あっという間に4年という歳月が経過しました。思えば、これと言って何もできなかったというのが正直なところですが、微力ながら、少しでも中部中のためにと走ってきたつもりです。保護者の皆さんの中には、ご存知の方もおられることとは思いますが、私は今年度末をもって退職となります。私の亀山市での教員生活は、この中部中でスタートし、通算で19年間お世話になりました。その間、たくさんの方々にご支援をいただきましたことに対し、この紙面を借りて御礼申し上げます。なお、私自身が文責を担う『学校だよりきずな』は、4年間で合計181回発行し情報の発信提供を続けてきましたが、今回をもって最終号となります。

## もうすぐ令和4年度～その先へ

◆コロナ禍の中でできる限りの日常実現

◆家庭・地域と連携協働した学力の向上

◆居心地の良い学校・学級づくりの推進

◆ICTを有効活用した教育実践の展開

◆質の高い教育に向け教職員働き方改革

4月1日は待たなし。その先の展望を左に挙げてみました。何事も、新型コロナウイルス抜きでは考えにくいので、まずはコロナ対応。しかし、コロナとの共存であることが前提です。学力の向上は、学校だけでなく、家庭の協力、地域のサポートがあつての賜物。まさに「社会に開かれた教育課程」です。常に化する子どもたちの心をしっかりと見据えた、居心地の良い学校・学級づくりは必須です。いじめゼロも、お題目になってはダメと心得ます。コロナ禍で唯一良かったのは、ICT環境が急速に整ったこと。これをフルに活かさない手はありません。最後に、我々教職員が元気に働けないと、学校に活気が無くなります。保護者の皆さん、地域の皆さんの理解を得ながら、働き方改革を実行に移すことで、教育の質が高まるのです。

# 『中部中校区CSサミット』を開催 校区4校の現状交流と今後の活動

去る3月22日に『中部中校区CSサミット』が開催され、校区内4校（1中学校・3小学校）の、学校運営協議会会長と校長が一堂に会して、コミュニティ・スクール運営の現状や今後の活動をはじめ、未来への展望などについて意見を交わしました。

この会は、本校CSの田中隆規会長と校長からの呼びかけに、3小学校のCS会長さんらが賛同して実現したものです。本来は、もっと早い時期にと考えていたのですが、新型コロナウイルスの感染拡大状況により、開催が大幅に延びてしまいました。それでも、今年度内に実施できたことは、大変意義深いことと思っています。会の終わりには、3小学校に共通するキーワードに「かんこ踊り」があることや、今後の取組として、中部中の生徒が出身小学校に関係なく各小学校へ何らかの形（部活動の発表、中学生がゲストティーチャーになる など）で出向いて行くなどのアイデアが出されました。参加者の中からは、「今日はこの会ができて良かった」や「年に何回かこんな機会があってもいい」などの感想が聞かれたのが印象的でした。このCSサミットが、中部中学校区独自のものとして、意義ある発展を遂げていくことを望みます。



## 三重のお気に入りスポットを 英語でプレゼン～2年英語科～

2年生の英語科では、「My Favorite Place in Mie」（三重における私のお気に入りの場所）と称して、授業の中で英作文を作った後、タブレット端末でプレゼンのスライドを作成。完成後は、グループ内で交流し合い、各グループの代表者がクラス全員の前でも披露しました。英語科の三根先生によると、「この取組は、英作文や単語調べのほか、英語で話すことも含め、英語に関する様々な要素がある」と説明。続けて「ALTにも添削してもらうなど、一生懸命取り組んでいた」と話す。

プレゼンシートは、校舎1階と2階の防火扉に掲示されており、中々の力作がズラリと並んでいます。英語教育や国際理解教育といった視点はもちろんのことですが、郷土愛であったり、歴史・文化の学習であったり、さらには、ICT教育、情報教育という視点からも、意味のある教材だと思えます。

## 各種大会等被表彰者一覧

主催	大会名等	表彰	学年・組・名前(フリガナ)
一般財団法人 三重県教育文化会館	第42回三重県小中学校書初め展	入選	1B 松村芽依(マツムラメイ)
		佳作	1B 高木花凜(タカキカリン)
		佳作	2B 黒田莉奈(クロダリナ)
公益社団法人 日本吹奏楽指導者協会東海支部	第26回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト 東海大会	銀賞	2A 藤本璃俐(フジモトリ)
三重県学校剣道連盟	三重県中学校剣道1年生大会	第3位	1E 別府紗衣(ベツフサエ)
		第3位	1E 糸井 空(イトイラ)

## 最後の最後の つ・ぶ・や・き

◆この学校だよりの表面にも書いたけれど、この4年の間にできる限りの情報提供をできたことは、結構満足している。  
◆40年近く教員をしてきたが、そこで出会った生徒たちや保護者の皆さん、地域の皆さんは、当たり前のことだけれど、その都度ちがうわけで、出会いの数だけ学びがあったのだと思っている。引退と言っても、どこか遠くへいくわけではないし、この中部中にも時々来るだろうし、まだまだ出会いは続くし学びも続くのだ。